

欧州研修報告：野口日菜子、江崎彩乃、橋本樹季、岡山央奈、鈴木里彩、八並映里香

## 研修初日 交流校でのPBL (Project Based Learning)、ライデン市内研修

交流校 Visser't Hooft Lyceum (中高一貫校で国際科も設置) にて、7人の高校生バディ (ホストファミリーでもあります) と対面しました。長崎や日本についてプレゼンをした後、3グループに分かれ「国際交流プログラムを成功させるためには」というテーマで PBL (課題解決学習) を行いました。「敬意」や「語学力」など5つの観点を各グループで選び、「なぜその観点が必要か」について後日発表することを課せられました。

午後は長崎とのゆかりが深いシーボルトハウスを訪問し、クリス館長から所蔵品の説明やシーボルトに関するQAをしていただきました。また、引率していただいた山下先生 (長崎大学) の取り計らいで、ライデン大学本部を見学し、400年の歴史と学問を深めることの厳しさをまざまざと体感することができました。夕方には長崎大学多文化社会学部の留学生4名とカフェで懇談できたのも良い思い出となりました。

ライデンは歴史を感じる教会や風車だけでなく、地元の人々も多く利用するような通りや店もあり、観光だけでなく地元の人々の生活を生で体験できる素晴らしい町です。(鈴木)



長崎や日本文化等についてプレゼン



シーボルトハウス



ライデン散策

## 研修2日目～3日目 アムステルダム・ハーグ研修

2日目はオランダ最大の都市アムステルダムにてバディと研修を行いました。アムステルダム中央駅は東京駅のモデルになったことで有名です。国立美術館ではレンブラントやゴッホの絵画に感動しました。次に訪問した国立ホロコースト博物館は、戦時中アムステルダムに住んでいたユダヤ人が強制収容所に移送される前に収監されていた場所に建てられています。長崎の被爆体験記録と同様に、強制収容所から帰還した多くのユダヤ人へのインタビューが映像に記録されています。これまで私たちは、虐殺はナチスによるものと考えていましたが、ドイツと同盟国であった日本に対する見方は欧州では異なっていると感じました。改めて平和の尊さを痛感しました。(橋本)

3日目はオランダ第三の都市で、政治の中心であるハーグへ電車で移動しました。まず平和宮 (国際司法裁判所) を訪問しました。戦争の歴史や、国家間の問題をどのようにして解決するのか (裁判よりも話し合いによる解決を図ることが多いそうです) など、多くのことを学ぶことができ、また今世界で起こっている問題について考える良い機会になりました。次に、マウリッツハイス美術館にてフェルメール作の世界的名画「真珠の耳飾りの少女」に感動しました。その後、バディと行政の中心で国王関連の重要な儀式も執り行われるピネンホフを散策したり、クロケットやトンプースなど、オランダならではの食べ物を堪能しました。(岡山)



← 強制収容所についてVRで学習

平和宮 (国際司法裁判所) →

